

Title: 「潜水するひつじ」



高橋 知佳
1989年生まれ。他称・じゃじゃ馬。ついに本の世界から現実世界へと飛び込みます。

● 最近のエントリー

- ☑ 4度目の最後、マレーシア (2009.09.17)
- ☑ より深い河 (2009.09.16)
- ☑ インドラ・ジャトラ、クマリの微笑 (2009.09.15)
- ☑ ナガルコット、1期生の足跡 (2009.09.13)

● アーカイブ

- ☑ 2009年10月
- ☑ 2009年09月
- ☑ 2009年08月
- ☑ 2009年07月
- ☑ 2009年06月
- ☑ 2009年05月
- ☑ 2009年04月
- ☑ 2009年03月

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

OLYMPUS
Your Vision, Our Future



RSS 2.0

潜水するひつじ > 2009年09月 アーカイブ

09.09.17

4度目の最後、マレーシア

[Tweet](#)[Check](#)

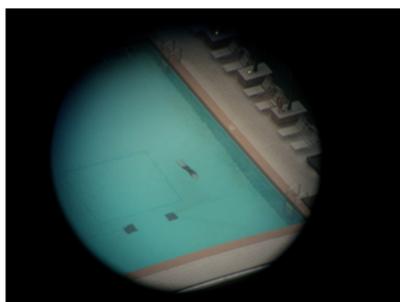
フリー期間も終わり、集合地釜山へ向かう準備をするため、マレーシアのスクーリング施設に戻りました。思えば4回目の入国。だいぶお世話になったマレーシアとも最後かと思うと寂しいものがありますね。



空港を出ようとしたとき、「タカシ！タカシ！」となにやら日本人を呼んでいるような声が出て、目をやると徳田さんと藤原くんが。ご丁寧に「高橋」と大きく書いた紙まで持って、わざわざお迎えに来てくれたようです。隣にいたインド系の人々も一緒になって私の名前を呼んでくれていて、そのせいで「タカシ」に聞こえたようで。いやー、びっくり。しかし、サトゥ・マレーシアグッズの帽子と旗の目立つこと目立つこと。

そして早朝に着いたこともあり、せっかくなのでKLタワーやら、森林研究所やら、水族館やらに行ってきました。

KLタワーからの景色は、残念ながら薄曇りで遠方が見えませんでした。





森林研究所。
森林と一緒に蚊の研究もしてるのだから、
あらゆる種類の蚊がぶんぶん。。



水族館。



カナヅチの私からしたら、すいすい泳ぐ魚たちの姿はうらやましい限りです。
水泳教室に通い、小学校では水泳部にも入っていたくせに泳げない私は
きっと生まれ変わったって海洋生物にはなれないでしょう。

そんな感じでKLの1泊はあれよあれよと終わり、
韓国への移動です。





濃密なふたり暮らしをしていた彼らは、ゲートの前で名残惜しそうに涙ぐんでおりました。なーんて暴露してしまったら文句言われそうですけど。

とにかくPj徳田さん、長い間大変お世話になりました。どうぞお体に気をつけて、満足いくまで写真を撮って、日本に凱旋してください。4期生一同、再会の日を心待ちにしております。

教員

カテゴリ:

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.09.17 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[灌水するひつじ](#) > 2009年09月 アーカイブ

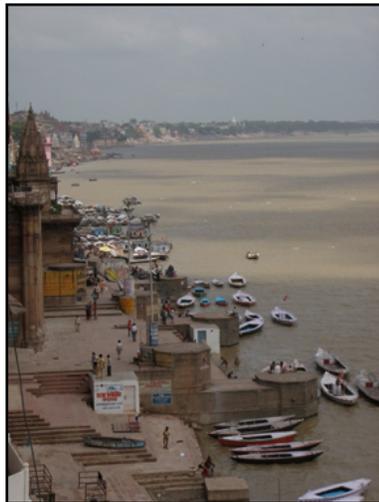
09.09.16

より深い河

[Tweet](#)

[Check](#)

ついに戻ってきました。
インド、バラナシ！！



約2ヶ月半は、バラナシの人々の記憶を薄める期間としては足りなかったようで、あらゆる人が私を見た途端、「おー！ナマステー！元気！？」とキラキラの笑顔で挨拶をしてくれました。

雨期に入ったバラナシは予想外の強風。ガンガーの水面が妖しくざわめいて、6月のときはまた違った趣きがありました。そしてなにより、寒いです。インドなのに。風邪ひきそうでした。「いやー、今日も良い風だ！」と喜ぶ地元民たち。彼らはいまの季節が一番過ごしやすく好きなようです。けれど私としては、「いやー、今日も暑いねえ...」と言い合っていた6月の酔うような暑さが恋しくもあったり。

そして因縁のdead bodyは、チェックインをすませた直後、表でスタッフと世間話をしているときに早速流れてきました。「いきなりですか...」
容赦ないです、ガンガーは。





そんな中、前回お世話になった旅行代理店のおっちゃんの娘さんが1歳の誕生日で、パーティに撮影係として招待されちゃいました。



マニキュアで顔に模様を描いておめかし。



きれいな奥さん。こりゃあ、娘さんの将来も楽しみですな。





ケーキとカレー料理が私にもまわってきました。
ケーキは正直不思議な味で、心頭を減して食しましたが、
カレー料理が、んもう、すごいおいしいですよ！
どんだんおかわりもくれちゃって、箸、もとい手も進むのですが、
残念なのが水。
「それ...さっきまで祭壇にお供えてた水だよねえ!？」
飲める訳もなく。
味の濃いカレーで水なしはきつく、やはり最後の方はこっちでも心頭を減しました。

別れ際、写真を喜んでくれたおっちゃんが
「きみはファミリーメンバーの一員だ!」
と住所を書いた紙をくれました。
これで名実ともに、バラナシは私のホームとなったわけです!笑

カテゴリ:

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.09.16 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[灌水するひつじ](#) > 2009年09月 アーカイブ

09.09.15

インドラ・ジャトラ、クマリの哄笑編

[Tweet](#)

[Check](#)

だいぶ前の話になってしまいますが..
9月3日、カトマンズのダルパール広場にて、
インドラ・ジャトラという大きなお祭りが開催されました。

本来インドラ神が主役のお祭りですが、
ネパールの生き神である少女・クマリが山車に乗ってカトマンズ内を
巡行するために、もっぱら人々の目当てはクマリの姿を拝むこと。

国王のいた時代には、国王もこのお祭りの際は自らクマリのもとへ出向いて
神託をうかがっていたとか。

そんなインドラ・ジャトラ、
お祭りスタッフと仲良くなって、プレス席に特別に入れてもらうことができました。



広場のあらゆる場所が見渡せる特等席ですが、
そりゃもうすごい人の数なんです。。





鮮やかな民族衣装が目にもぶしいです。

車でぞくぞくと各国の大使たちも登場し、旧王宮のバルコニーでお互い握手をかわしたり、カメラを構えたり。



兵隊の整列もすみ、とうとうお祭りスタート！だったのですが、ハリボテの象の中に人が入って、広場を駆けまわる。それを1時間強。。



そしてその後、一瞬で終わったクマリの山車出発。





クマリの出発のときしか結局演奏しなかった音楽隊。



内容が薄いわりに大掛かりなお祭りだったな、と
思ってしまうのは、やはりヒンドゥー教徒じゃないからでしょう。笑

「夜も酒飲み大会とか、仮面舞踊とかあるよ☆」
というスタッフの言葉を聞き、一旦ホテルに三脚とストロボを撮りに行き、
チベット料理のモモを素早く平らげて、再びダルパール広場へ。



普段イベント的な遊びがなかなかないネパール。
みんなここぞばかりにはしゃいでました。

酒飲み大会も終わり、仮面舞踊も終わり
そろそろ引き上げようかと考えていたとき、
広場に帰ってきたクマリの山車と遭遇。
山車に群がるヒンドゥー教徒たち。
まさか! ? と思って近寄ると、



やっぱり!!クマリだああ!!!!

ちょ、すみません。通してください。すみません...。
人波をかきわけ、山車を登り、クマリ様の眼前へ。

ごついカメラを持ってみくちやにされながらも登ってきた、
日本人の小娘の姿がよっぽどおかしかったのか、
私を見た途端
「あはははは！」
と声をたてて笑うクマリ様。

本来、よっぽどのことがないと笑ってはいけないクマリの役職。
神様らしく威厳を保たないといけないらしいのですが、
聞けばこのクマリ様は去年引退したクマリらしいです。
クマリは両親とも引き離され、外界と隔離されたところで
より良い神様になるための勉強をさせられますが、
そのような育ち方をしたかために社会復帰は困難とも言われています。

彼女はこのお祭りが終わったら、ようやく実家に帰れるそうで、
なのであの笑顔を見て、なんだか安心しました。
笑いたいときに笑えるなら、きっと彼女は大丈夫だろうと思います。

現クマリの山車も見つけ、そちらにも謁見しましたが、
新しいクマリは現在5歳。
そして5歳らしからぬ落ち着きをもった、なんとも神様らしい方でした。
あんな大人数に押し掛けられて、泣かないなんてたいしたもんですよ。

しかし後から調べてみてわかったのですが、
クマリは行動によってその人の未来を予言しているらしいです。
そして大声で笑うのは、イコール深刻な病や死。

.....

まあ、もう引退してますし？
ていうことはもうただの少女ですし？

きっと大丈夫！ということにします。

カテゴリ：

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.09.15 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[潜水するひつじ](#) > 2009年09月 アーカイブ

09.09.13

ナガルコット、1期生の足跡編

[Tweet](#)

[Check](#)

「高橋さん、撮影でナガルコット行く？」
「はい、行きますよ」
「じゃあお願いしてもいい？」
そう言って徳田さんが徹夜で作り上げたのは、1期生がネパールのナガルコットで写真展をやった時の写真がたくさん詰まった、すてきな写真集。



「これを雲海リゾートの人に渡して、あの時はお世話になりましたって、よく伝えて」
どうやら雲海リゾートは、ナガルコット滞在中にずっと宿泊していた施設らしいです。なんでもオーナーの奥さまは日本の方だとか。
「了解です」



ナガルコットはヒマラヤの景勝地で、
カトマンズからローカルバスを乗り継いで2時間ほどのところにあります。
溢れる大自然。



なんていうか、予想よりも街らしくないところでした。
ちっちゃい集落と、無数に散らばる豪華なホテル、ホテル、ホテル。
本当に、ヒマラヤを見るためだけにあるようなところなんですね。山の中じゃあ、なかなかポカラみたいにはいかないでしょう。
ただ喧嘩のカトマンズから来ると本当に穏やかで良いところです。

そして街らしくないところだからこそ、目印の少なさに何度も道を間違えます。
地図持ってるのに...。
しかも坂道だらけ。
「くそう。徳田さんめ」
疲れを紛らすためだけに、恨み言を呟いてみたり。

しばらくしてようやく看板を発見し、



着きましたよー、雲海リゾート！！

そして折よく、奥さまらしき方が表に出て山を眺めていらっしゃり。
どきどきしながら本人確認。
「こんにちは。あの、こちらのオーナーの...?」
「はい、そうです!」
うわお。ピング。そしてなんて眩しい笑顔。
さらにどきどきしながらおもむくに写真集を鞆から取り出す私。
「実はお届け物があってまいりました。彼らを覚えていらっしゃいますか?」
1ページ目の集合写真を見た瞬間、大きく目を見開く奥さま。
「あー！もちろんです！覚えてます!」
「私、彼らの後輩でして...かくかくしかじか」
「へえー！とにかく、どうぞ中へ」
「ありがとうございます、お邪魔します」

ミルクティーをごちそうになりながら、会話は弾みます。
「懐かしいなあ、もう3年も前なんてねー...。彼らの写真展、大盛況だったんですよ。住民たちの写真を撮って、それをプリントしたものを何力所かに展示していらしたんですけど、この住民は写真を撮る機会なんてないから。わざわざ着替えてから撮られに来る子もいたりして。私のところに頼みに来る人もいたんですよ。日本語で仲介してくれて。でも彼ら毎晩忙しそうに作業してたから、仕事を増やしていいものか考えちゃってました」
「そうですね、撮影もプリントも全部現地に来てからやるのは...」
「そうそう。でもみんな本当に、礼儀正しくて良い子たちでしたね。彼らはいま、どうしてます?」
先輩方、そして五十嵐先生についての近況を、知っている限りお話させていただきました。
「みなさんそれぞれ、活躍なさってるんですねえ!」
まるで身内のことのように、喜んでくださいました。

そして集合写真を再びしみじみと眺められ、
「この写真に写ってるスタッフ、もうひとりしか残ってないんですよ」
「え！そうなんですか」
「みんな違う街に出稼ぎに行っちゃって。残ったひとりも、このときは若かったけど、もう結婚してるんですよ。あとはこの犬ね、うちで飼ってた犬なんですけど。死んじゃいましたね」

「...。セツオスルコトヲ平つゝ、良い年月はんじしよつイ」

そして奥さまは偶然にも、我々4期生と同じ9/18に日本に一時帰国なさるとか。
なんと5年ぶりの帰国らしいです！
「日本食と、あと湯船につかるのが楽しみです」
「あ〜、わかります！！」
私の旅の期間は所詮まだ5ヶ月ちよいですが、激しく同意させていただきました。
日本に帰国なさるなら、どこかで1期生のみなさんと再会できたらすてきなにな、と思いまし
たが。実家のある四国に滞在なさるらしいです。

「またナガルコットで写真展をやりたい子たちがいたら、ぜひどうぞ！大歓迎です」
と書いていただきました。
これはやはり1期生の先輩が良い過ごし方をされ、良い関係を築き上げたことの証明だと思
います。
「最後になにか彼らにメッセージがあれば、是非！」
「もちろんあります！"みんな、本当に大好きです！！"って伝えてください」



というわけで1期生ネパール班のみなさま、
確かにお届けしましたよ！

カテゴリ:

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.09.13 | [パーマリンク](#) | [コメント \(3\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[潜水するひつじ](#) > 2009年09月 アーカイブ

09.09.01

via SINGAPORE

[Tweet](#)

[Check](#)

フリー期間第一の目的地、カトマンズ。
数年前にはあったはずのKL→カトマンズ直行便がまさかの廃便！
ナンテコッタ。
そこで出てきたのは3つの選択肢。
①バンコク経由の飛行機
これなら朝早くにKLを出て、待ち時間もあまりないので
昼にはカトマンズ着。お値段約10万円。
②シンガポール、デリー経由の飛行機
夕方にKLを出て、23時にシンガポールからデリーへ、7時にデリーからカトマンズへ。
つまりは翌朝カトマンズ着。
デリーで少し待たされるのと、1日余計にかかるのが難点だけれども、
シンガポール行きの飛行機は憧れのJAL！！
お値段約6万円。
③シンガポールまでバスで行き、デリー経由の飛行機
JALを諦めて陸路でシンガポールまで行き、それ以降は②と同じ飛行機。
バスがちょうどいい時間がないため出発の時間が6時間ほど早まり、
その分シンガポールでの待ち時間も加わるのが難点。
お値段約3万円。

もはや選択肢でもなんでもないですね。当然③です。
距離的にはシンガポールの方がカトマンズから遠いの、この値段差はなんなんだか...

さて、マレーシア〜シンガポール間を走る長距離バスは
様々なバス会社のものがありますが、
空港での待ち時間が一番少なくてすむ時間に出るバスは、噂のファーストクラスバス！
(と言っても前回みんなでシンガポール行くとときに使ったバスと300円くらいの差ですが)
せっかくなので利用してみることに。

KLの中心部にある事務所兼、待合室。





発車の時間になり、荷物を運んでもらいつつ悠々と乗り込むなり、「あ、きみだけだから好きな席座っていいよ」と運転手。まさかの貸し切りですか！！



うーん、なんて無駄なスペース。本来乗用車で充分なのに。地球にも会社にも優しくない、この感じ。しかしその大きさゆえにバス移動のときはいつも煙たがられる私のカメラバッグも、座席ひとつもらえて、なんだか嬉しいそうです。



WiFi完備で各座席にはコンセントもあり。これから行く2カ国はホテルでさえネットが使えない場合が多いので、もはやこのバスに寝泊まりしたいぐらいです。小型テレビも一台ずつ配備されていてドラゴンボールのゲームなんかも入っていましたが、「コントローラーないじゃん。笑」スタート画面に突入するまでの、登場人物たちのセリフを楽しんで終わりました。

そしてお昼ご飯。ネット予約の際、わざわざベジかノンベジかと聞かれていたので、こりゃあすんごいのが出てくるはず！！と期待していたら、



なんのことはない。某チェーン店のバゲットでした。提携を結んでいるのか、ひとりだからと手を抜かれたのか...おいしいからいいんですけどね。

前回来たときはツアー客でこた返っていたシンガポールのイミグレは、すこーんと、誰もいないに等しい状態。

「あなた、写真撮る人？」
「イエス」
「日本から来たの？」
「イエス」
「そうなのー、Have a nice trip☆」
「どーも☆」

X線検査も和やかに終了。

初めての単独国境越えは、終始VIPに終わりました。

しかし、バスの終着点はまさかの住宅地！



前回みんなで来たときと、同じところに降ろされるだろうと高をくくっていた私。そしたらそのまま電車に乗って、1回乗り換えるだけで空港だと思っていただけに、がっかり。駅はどこさ。いっそのまま空港まで連れてってくれよ。

「ねえ、電車乗りたいんだけど駅ってどっち？」
運転手に聞いたものの、曖昧な返事。
「新市街の方行けばあるんじゃない？ここから10分、15分...いや20分...」
そのうち1時間とか言い出すんじゃないか、と思い
「ありがとう」
そそくさと退散。

どうせ6時間余ってるし、せっかくシンガポール来たんだしと、腹をくくって勘を頼りに街歩き。



途中歩道橋を無駄に往復したりして、結局、駅に着いたのは1時間後でした。



そしてこの駅名、すごく覚えがあるんですけど！私の記憶が確かなら、前回泊まっていたホテルのすぐ近くですね。「うわー、トルコアイス食べたい！ ラーメン食べたい！」けれどそのためにわざわざシンガポールドルをおろすのも虚しいので、予定通り空港へ。

チャンギ国際空港。



清潔なのはもちろんのこと、ジムやら展望台やらオプション満載でした。こちらはフリーの映画館。

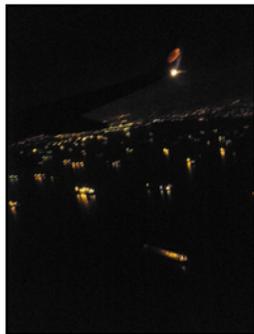




上に紙を乗せてクレパスでこするの、アートのスペースも。



空港内の観光で良い感じに待ち時間を過ごし終え、飛行機は夜空へと羽ばたきました。



そして10時間後、無事ネパールに出国しました。

カテゴリ：

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.09.01 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)